社会科

小学校 5年

# 社会科「情報化した社会と産業の発展」
## 情報産業とわたしたちのくらし

相馬市立中村第二小学校

# C 協働学習（C４）

主な学習活動

- 調査活動と新聞社との遠隔交流学習により、情報発信による影響について理解する。
- グループでの話合いを通して、自分の考えをテキストにまとめる。

## 1 本時のねらい

情報が人々の生活に様々な影響を与えることを理解し、自分の言葉で表現することができる。

## 2 主に活用したＩＣＴ機器・コンテンツ等

授業支援　電子黒板　Google Meet　モニター　スクリーン

## 3 参考にしてほしいポイント

- 授業支援アプリで配信したテキストに自分の考えをまとめて保存することにより、学びを累積しデジタル新聞の作成に活用する。
- 調査活動では、教科書や資料集、インターネットを用いた情報収集に加え、児童の興味・関心に応じ選択できる学びの場を設定する。（新聞社へのインタビューブース・映像視聴ブース）
- 終末では、大型スクリーンを用いて新聞社の方の話を全体で聞く。

| 段階<br>場面 | 主な学習活動 | ICT機器活用のポイント |
|---|---|---|
| 展開<br><br><br>終末 | (1)情報が生活に与える影響について調査活動を行う。<br><br>(2)グループで考えを交流する。<br><br>(3)新聞社の方の話を聞く。 | （授業支援アプリ）配信したテキストにまとめる際は、場の設定を工夫し、児童の興味・関心に合わせた調査方法で情報を主体的に収集することができるようにする。<br>（モニター）Google Meetで新聞社とつなぎ、遠隔によるインタビューでの調査活動により、専門的な知識を得ることができるようにする。<br>（電子黒板）共同編集し、提出したグループの考えを視覚的に捉えやすくすることにより、自分の考えを再構築できるようにする。<br>（スクリーン）全体で新聞社の方の話を聞くことにより、新たな視点に気付くことができるようにする。 |

タブレット
＋
モニター
スクリーン

## 4 活用効果

自分の興味・関心に合わせ調査活動の方法を選択させることにより、児童は意欲的に調べまとめることができた。遠隔によるインタビューでの調査活動では、新聞社の方から直接話を聞くことにより、新たな視点に気付いたり、自分の考えを再確認したりするなど、現実感をもって学習内容を理解することができた。終末の全体に向けての話は、インタビューを選択しなかった児童にとっても大変有意義であり、次時の学習に向けて意欲を高めることにつながった。

## 5 アドバイザーからのコメント

資料の写真の中で、新聞社の人の話を聞いている光景があります。新聞社と学校は、世界が違っています。企業で働く専門家、教育における専門家、政治の世界の専門家、スポーツの世界の専門家、それぞれ分野によって、見方・考え方が違うからです。（東京工業大学　赤堀侃司）

地域に根ざした課題を検討する際、ビデオ会議アプリ等により地域の方と連携することで、本物の問題に向き合うことができると考えられます。本実践のように単元の本質と組み合わせることで「真正の学び」とすることができ、深い学びへ向かうための原動力とすることが期待されます。(福島大学 平中宏典)